



IRとは？

～山形大学における実践から～

浅野 茂

山形大学 学術研究院 教授
(企画評価、IR担当)

2020年1月31日(金) 13:00～17:30

令和元年度人材育成セミナー

「大学等のIR実務担当者向けワークショップ」 報告資料

於： 学術総合センター 2階 一橋大学一橋講堂 中会議場 3・4

資料の構成

0. プロフィール
1. 報告のねらい
3. IRとは？
4. 日本の大学におけるIRの現状
5. 山形大学におけるIR
6. まとめ

0.プロフィール（個人）

- ✓ 専門は経営学
 - 神戸大学大学院経営学研究科修了（平成18年3月）
- ✓ 平成18～25年
 - 神戸大学で企画評価関係の業務に従事
- ✓ 平成25～27年
 - 独立行政法人大学評価・学位授与機構（東京）において大学評価に関連する業務に従事
- ✓ 平成27年4月～
 - 企画評価、IR（Institutional Research）の業務に加え、初年次教育（スタートアップセミナー等）の授業も担当。
 - 学外活動：中教審教学マネジメント特別委員会委員、文部科学省客員研究官、名古屋大学IR本部特任教授など

詳細は、山形大学研究者情報に公開。

URL: http://yudb.kj.yamagata-u.ac.jp/html/200000148_ja.html

0.プロフィール（大学）

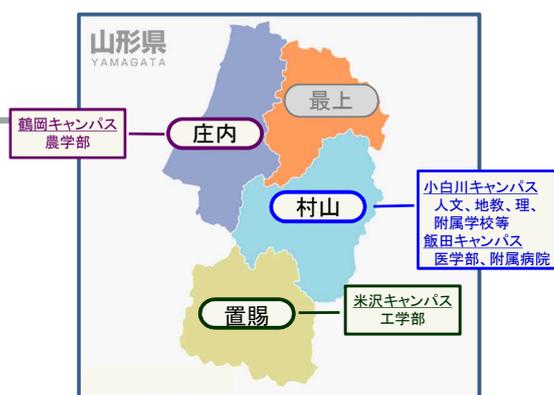
【構成】

- ・ 6学部（人文・地教・理・医・工・農）
- 7研究科、医学部附属病院、附属学校 等

【員数等】（2019年5月1日現在）

- ・ 学生数：約9,000人、生徒児童数：約1,300人

学部	入学定員	在籍者数
人文社会科学部	290	1,325
地域教育文化学部	175	810
理学部	210	876
医学部	180	1,024
工学部	650	2,806
農学部	165	660
計	1,670	7,501
大学院	入学定員	在籍者数
修士・博士前期課程	428	973
博士・博士後期課程	69	262
専門職学位課程	20	43
計	517	1,278



（地域別入学者数） 2019年4月入学者

東北：64%、関東：16%、北陸・中部：15%

※東北の内訳：山形県：23%、宮城県：22%、福島県：7%

（地域別就職者） 2019年3月卒業生

東北：54%、関東：31%、北陸・中部：6%

※東北の内訳：山形県：26%、宮城県：20%、福島県：4%

（主な卒業生）

吉本隆明（思想家）、藤沢周平（小説家）

上田準二（エー・ファミリー・ホールディングス（株）代表取締役社長）

西海和久（株式会社ブリヂストンCOO）他

- ・ 教職員：約3,000人

（先進的な研究分野）

有機材料、ナスカ地上絵、総合スピ科学、分子疫学他

⇒大学関係者：約15,000人（山形県人口の約1%、山形市人口の約5%）

1. 報告のねらい

- 日本の大学関係者のInstitutional Research (IR) に対する関心と期待は依然として高い。特に、学習成果の把握、教育の質保証、教学マネジメントなど、大学教育の改善に向けた取組が学外から強く求められるに連れ、多くの大学でIR の活用が模索されている。
 - 本報告では、報告者がこれまで取り組んできた日米両国のIRに関する研究、並びにこれまでの実践等を通じて蓄積した経験値を踏まえ、大学におけるIR の役割や、IRを機能させる要因等を共有したい。
-

2. IRとは？（1）

- 「IRとは何か」について、一概には答えられない古典的な問題である。（Terenzini, 1999）

→IRは多義的な概念であり、米国でも必ずしも一貫した厳密な定義が存在するわけではない。部署の構成や業務内容は大学の属性によって異なるうえ、データ収集から戦略策定まで広範にわたる活動（現在も発展中）である。（小林・山田（編），2016）
 - 最も広く受け入れられているのは、Fincher（1978）及びSaupe（1990）の定義。（Howard et.al, 2012, 第2章）
-

2. IRとは？（2）

- Fincher（1978）
 - Institutional Research as “organizational intelligence”
→収集したデータを分析し情報に変換する組織的な知性
- Terenzini（1999）
 - Technical/Analytical Intelligence
→調査設計や統計手法等、調査・分析に要する専門的・分析的な知性
 - Issue Intelligence
→組織内の課題、意思決定における重要度等の理解に要する知性
 - Contextual Intelligence
→高等教育全般、組織の歴史や文化等の文脈の理解に要する知性

2. IRとは？（3）

- Saupe（1981）
 - Institutional Research as “decision support”
→意思決定を支援するうえで必要な情報を提供するために
行う調査・研究

具体的には、以下の6つからなる。

- 計画策定の場における特定の問いに応える「応用研究」
- 教育プログラムや組織の自己点検に必要な情報を集める「評価」
- 大学の総括的な情報を扱う「基礎研究」
- 懸念が生じるような状況を見分ける「問題発見」
- 特定の相手と協働しながら研究を進める「アクション・リサーチ」
- 学内の諸方策の分析を行う「政策分析」

2. IRとは？（4）

表2 IR室のミッション・ステートメント等で良く使われている語幹

語幹	provid	data	support	plan	inform
日本語訳	提供	データ	支援	計画	情報
出現頻度	22	25	30	36	37



図1 IR室のミッション・ステートメント等に含まれる語によるワードクラウド（Word Cloud）

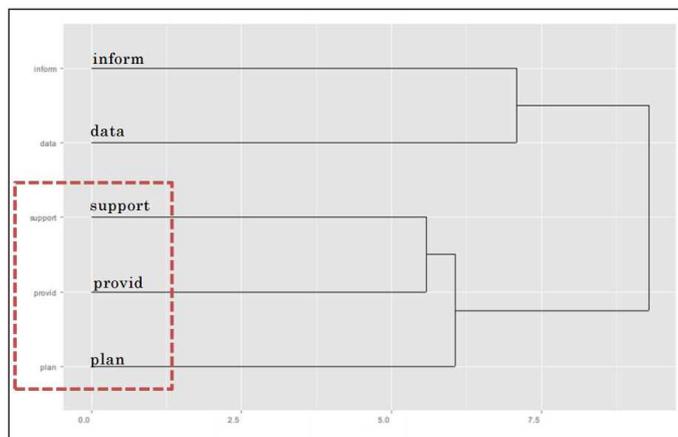


図2 表2で示した5つの語幹に対するクラスター分析結果

出所： 藤原（2015）、pp.20-21.

3. 日本の大学におけるIRの現状（1）

大学における教育内容等の改革状況について（平成28年度）

IR（インスティトゥーショナル・リサーチ）：大学の組織や教育研究等に関する情報を収集・分析することで、**学内の意思決定や改善活動の支援**や、外部に対する説明責任を果たす活動といわれており、アメリカでは・・・（後略）

全学的なIR部署の設置状況	平成24年度	平成28年度
専門の担当部署を設けている	81大学（10.6%）	279大学（36.8%）
委員会方式の組織を設けている	81大学（10.6%）	196大学（25.9%）

全学的なIR部署の担当業務（Top5）	平成28年度
①学生の学修成果の評価のためのデータ収集等	180大学（23.7%）
②自己点検評価に必要なデータ収集等	168大学（22.2%）
③学生の学修時間の把握のためのデータ収集等	158大学（20.8%）
④認証評価の報告書作成、必要なデータ収集等	146大学（19.3%）
⑤学生、大学教職員に関するデータ収集等	139大学（18.3%）

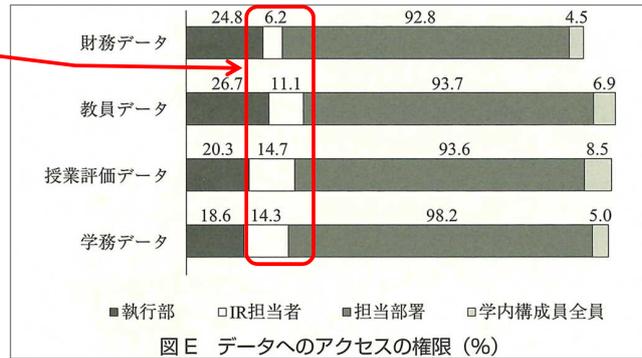
※N=758大学（回答率：98%）

出所： 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室（2019）pp.49-50
＜6-B IRに関する取組＞に基づき報告者作成。

3. 日本の大学におけるIRの現状（2）

IR担当者が全学データにアクセスできる権限は6.2～14.3%と低い。

- ・ 設置形態に関わらず、依然、データの収集・管理が課題。
- ・ 共通課題として、データ所管部署が不明、システム管理部署の支援が得られない、といった自由記述が見受けられた。



出所： 小林・山田（編），2016；pp.191

選択肢	国立		公立		私立	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
① 調査・分析の設計	7	22.6%	3	21.4%	42	28.0%
② データの収集・管理（分析前処理を含む）	10	32.3%	7	50.0%	57	38.0%
③ 分析	5	16.1%	3	21.4%	18	12.0%
④ 報告	4	12.9%	1	7.1%	16	10.7%
⑤ その他	5	16.1%	0	0.0%	17	11.3%
合計	31	100%	14	100%	150	100%

図 1 「IR 活動の流れの中で最も困っているもの」の回答割合

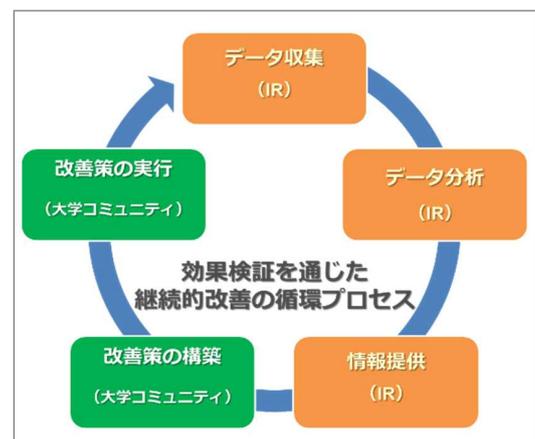
出所： 橋本・白石（2019）；pp.18

4. 山形大学におけるIR（1）



山形大学次世代形成・評価開発機構IR部門（Office of Institutional Research & Effectiveness, OIRE）は、データの収集および分析を行い、大学コミュニティへの情報提供を通じて、山形大学の継続的改善と、データに基づく意思決定を支援します。

- ・ **IR (Institutional Research)** とは客観的なデータ分析に基づいた大学における諸活動の効果検証及び、情報提供等を通じた大学の意思決定又は業務の継続的改善を支援すること
- ・ **IE (Institutional Effectiveness)** とはIR機能を活用して効果検証を行い、大学として継続的改善の循環プロセスを実行すること



4. 山形大学におけるIR（2）

学内の各種データをどのような責任と役割の下で収集し、それらをどのように管理し、「**大学として**」活用していくためのルールを策定！

学内に散在する各種データをIR業務で有効活用するための規程

1. 国立大学法人山形大学IR情報データベースに係る情報保護管理規程（H18.4月制定、H29.3月までに計12回改正）

IRシステムに集約するデータを保有または管理している部署を明確化し、収集するデータの範囲や収集方法等を明記。

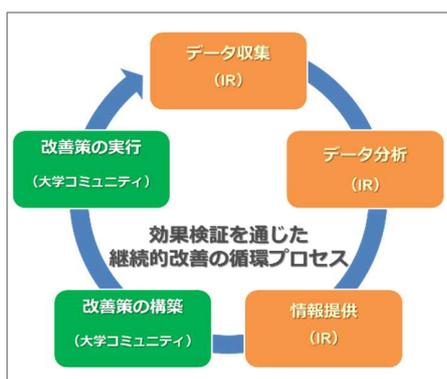
URL: https://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/reiki_int/reiki_honbun/w679RG00000123.html

2. 国立大学法人山形大学IRシステムマネジメント規程（H26.9月制定、H29.11月までに計4回改正）

IRシステムの運用に係る学長、理事、部局長等の責任を明確化し、情報提供及び活用に向けて協力することを明記。

URL: https://www.yamagata-u.ac.jp/reiki/reiki_int/reiki_honbun/w679RG00000122.html

7. まとめ



IRとは「ある特定の目的に沿って情報を収集し、それらを加工・統合して分析し、計画立案や意思決定を支援するために展開される活動の総称」として捉えることができる（浅野，2016）。

IRの役割： 意思決定、または改善の支援

執行部の役割： 意思決定、または改善



Keidanren
Policy & Action



 文部科学省

IR

参考文献・資料

- Fincher, C. (1978). Institutional Research as organizational intelligence. *Research in Higher Education*, 8(2), 189-192.
- Howard, R.D., McLaughlin, G.W., Knight, W.E., & Associates (2012). *The Handbook of Institutional Research*, San Francisco, CA: Jossey-Bass.
- Saupe, J. L. (1981). *The Functions of Institutional Research*. Association for Institutional Research.
- Terenzini, P. (1993). On the Nature of Institutional Research and Knowledge and Skills It Require. *Research in Higher Education*, 34(1), 1-10.
- 浅野茂 (2016), 「データベースの構築とIRの課題」, 高等教育研究第19集, pp.49-66.
- 小林雅之・山田礼子 (編) (2016), 『大学のIR 意思決定支援のための情報収集と分析』慶應義塾大学出版会.
- 橋本智也 ; 白石哲也 (2019), 「大学におけるIRの実態に関するアンケートの調査報告 – 自由記述に見られた困難・活動内容 –」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第10号, pp.16-10.
- 藤原宏司 (2015), 「政策立案・計画策定における米国 IR 室の役割」, 大学評価コンソーシアム情報誌「大学評価とIR」第2号, pp.17-25.
- 文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室 (2019), 「平成28年度の大学における教育内容等の改革状況について (概要)」 (URL 最終閲覧日: 2019年8月10日) .
http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/daigaku/04052801/_icsFiles/afieldfile/2019/05/28/1417336_001.pdf